

令和3 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床神経学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 金曜1限	教室名	4校舎401教室
担 当 教 員	槇 政彦	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
神経疾患の症候と疾患について専門知識を得て、理解を深める事が目標である。						
《成績評価の方法と基準》						
8回の講義が終了後、筆記試験を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
言語聴覚士テキスト(医歯薬出版株式会社)第3版を教材とする。						
《授業外における学習方法》						
教材に沿って授業を進めるのであらかじめ該当箇所を予習することが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
ノートは蛍光ペンなどを使いきれいなこと事。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 神経系の解剖と生理2. 神経学的検査についての知識を得る	言語聴覚士テキスト	該当箇所を予習のこと	
		各コマにおける授業予定	テキスト1、2章の内容を説明します。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経症候学の中の意識と脳神経系について理解する。	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	テキスト3-1及び3-2を説明します。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経症候学の中の運動系感覚系反射髄膜刺激症候を理解する。	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	テキスト3-3、3-4、3-5、3-6を説明します。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床神経学各論の中の脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍について理解する。	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	テキスト4-1、4-2、4-3について説明します。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床神経学各論の中の中枢神経系感染症と神経変性疾患(前半)を理解する。	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	テキスト4-4、4-5-(1)の説明をします。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経変性疾患後半と認知症と水頭症と脱髄疾患を理解する。	同上	同上
		各コマにおける授業予定	テキスト4-5-(2)(3)、4-6、4-7、4-8の説明をします。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経障害と筋疾患と代謝性疾患とその他の疾患について理解する。	同上	同上
		各コマにおける授業予定	テキスト4-9、4-10、4-11、4-12の説明をします		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1～7回の内容を習得する。		
		各コマにおける授業予定	授業の総復習:小テストを行う予定です。		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			